

## 2021年度 第2回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会 議 事 録

1. 開催日時： 2021年10月21日(木) 19:00～20:35
2. 開催場所： オンライン開催、町田市医師会館
3. 出席委員： 川村益彦、五十子桂祐、山田潔、高橋克也、岡元信太郎、西原佳子、齋藤秀和、大島泰嗣、臼井亨、川島政美、常盤弘幸、柏木真吾、及川裕美子、永見直明、井上健太、大庭陽平、小金栄太、長谷川昌之、齋藤美和子、青木範和、黒澤一弘  
計 21名(敬称略)
4. 欠席委員： 北場充(異動のため後任委員調整中)
5. 市出席者： 高齢者福祉課 皆川麻美、江崎薫、二串裕人 (敬称略)
6. その他報告者： 菅朋宏、小林真人、田中一恵、赤平幸人 (敬称略)
7. 傍聴者： 59名(会場4名、オンライン55名)
8. 記録： 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵、倉貫理恵

### 《資料》

- 資料1 2021年度医療と介護の資源紹介イベント開催について
- 資料2 第16回多職種連携研修会について
- 資料3 町プロ多職種研修会緊急企画 動画配信について
- 資料4 2021年度町田市死亡小票分析報告書(概要版)
- 資料5-1 地域ケア推進会議報告書(町田圏域①)
- 資料5-2 地域ケア推進会議報告書(町田圏域②)
- 資料6 第17回多職種連携研修会開催要綱(案)
- 資料7-1 地域包括支援センター宛:町プロ・お薬手帳カバー配布について(通知)(案)
- 資料7-2 町田市ケアマネジャー連絡会宛:町プロ・お薬手帳カバー配布について(通知)(案)
- 資料7別紙 お薬手帳カバー配布マニュアル(案)
- 資料8 2021年度第10回町田市喀痰吸引研修第3号・受講申込書
- 資料8別紙 喀痰吸引等研修の受講資格フローチャート
- 資料9 町田市ソーシャルワーカー連絡会・町田社会福祉士会共催会員向けオンライン研修会
- その他 町田市内の介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)作成に関する参考資料

### 《開 会》

#### 1 開会挨拶

【川村会長】 皆さん、こんばんは。やっとコロナの感染も落ち着いて一安心というところではないかと思う。8月中旬以降厳しい状態が続いていたが、原因ははっきりしないが減少してくれてよかった。この状態が続いてくれればいいと思うが、これから寒い季節を迎えてインフルエンザの流行も懸念され、6波のこともあるので、油断はせずに通常の感染予防をしっかりと続けていただきたい。本日もたくさんの報告・議題があるが、今日は町田市の死亡小票分析報告書について、思ったことをお話ししたい。当然のことながら死亡者数が増えている。病院の死亡が減って、自宅や施設での死亡が増えてきている。その前段階として自宅療養、施設療養している方が、非常に多くなるので、我々の医療と介護の連携、町プロの協議会の役割がますます重要になってくると思う。我々もしっかりとやっていきたい。また

更にその前段階として、フレイルの予防にも力を入れていきたいので、ご協力をお願いしたい。よろしくお願いいたします。

## 2 報告事項

### (1) 2021年度医療と介護の資源紹介イベント開催延期について【資料1】

【高齢者福祉課・江崎氏】 江崎氏より資料1に沿って報告された。

延期後の開催時期について、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえながらではあるが、2月末頃から3月末頃の間で調整し開催したいと考えている。

### (2) 第16回多職種連携研修会開催報告について【資料2】

【研修部会長・菅氏】 菅氏より資料2に沿って報告された。

### (3) 町プロ多職種研修会緊急企画 動画配信について【資料3】

【高齢者福祉課・江崎氏】 江崎氏より資料3に沿って報告された。

完成した動画は広報まちだ11/1号の記事「新型コロナウイルスワクチン接種状況と with コロナ」の紙面でも公開される予定。

### (4) 死亡小票分析報告書について【資料4】

【高齢者福祉課・二串氏】 二串氏より資料4に沿って報告された。

今回の資料を各専門職の連絡会などで確認いただき、増加が見込まれる在宅での看取りに対し、各専門職でどのような影響があるのか、どう看取りに関わることができるのかを考えるきっかけになればと思う。今後、町プロの中でも医療と介護が連携してどのように対応していけばよいのかを検討していければと考えている。

【大島委員】 31ページにある2025年の年間765人、また2040年の年間1,071人という人数を聞き、ケアマネジャーの市内の人数が400名ほどしかないないので、場合によっては1人が何人も年間に担当していくような現状がある。また経験によっても違ってくるが、偏りが出てしまっているという状況もあると思うので、この数字を連絡会にも持ち帰り、経験、年数問わず、しっかりと多職種連携しながら、在宅の看取りというところを支援していけるようなケアマネジャーの育成が必要であると感じた。

【川村会長】 医師会から見ると在宅で看取る医療機関が、正直今のところ増える要素というものがない。そもそも町プロを始めるときに、在宅を診るような医療機関を増やすということも目標の中に入っていたが、残念ながら今のところ増えていないのが現状である。また、医療機関が少し減ったということで、詳しくは見っていないが、医師会も高齢化が進んでいて、昔から在宅医療を行っていた先生が引退ということもある。若い先生や新しく開業している先生もたくさんいる中で、在宅の方も頑張ろうという先生も少しはいる。割と広いエリアでやっていて、グループでやっているが、そうした先生も医師会には入っているので、一緒にやっていけると思う。この点は医師会としても頭の痛いところで、どのようにしていけばいいか、今後も皆さんと協力をしてやっていきたい。医師会の中の在宅ケア委員会などとも通して、医師会としてできることを探していきたい。

### (5) 地域ケア会議について【資料5】

【長谷川委員】 長谷川氏によって資料5に沿って報告された。

【五十子委員】 医療関係者が両日1名になっているが同じ先生か。同じ先生が来ることで、医療と連携していることにはなかなかならない。普段来られていない先生に、このケア会議に来ていただけるような取り組みというのはどのようにしているのか。

【長谷川委員】 町田圏域の先生方に参加についての案内をしているがなかなか参加していただけないのが現状。そのアプローチの方法も今後、各支援センターとも考えていきたいと思う。

【五十子委員】 どのくらい前に打診をするのか。1週間前に案内を配られても来られない。具体的な取り組みを知りたい。

- 【長谷川委員】 市に出す計画書自体は概ね1か月前になっており、その段階では日にちを確定しているので、その前後ずれないなるべく早く決まった段階で先生方にはお知らせをしている。
- 【五十子委員】 1か月前には圏域の先生方は知っているという前提になるのか。圏域の先生方には全員声がかかっているという認識でよいのか。そうすると医師会としてもどうして参加できていないのかを確認すればよいが、そもそも案内が行っていなかったり、固定の先生にしか案内が行っていないのであれば、確認の意味がないのかと思い、その点を知りたい。
- 【長谷川委員】 どの先生までお声がけしているかということはセンターごとに把握をしており、資料がないので、確認して改めて報告をしたい。

### 3 協議事項

#### (1) 第17回多職種連携研修会について 【資料6】

- 【研修部会長・菅氏】 菅氏より資料6に沿って説明された。
- 【小金委員】 会場上映については新型コロナの状況などで人数が変わるということはあるのか。
- 【研修部会長・菅氏】 コロナの状況に応じて、人数変更・中止ということもありえるということで予定している。
- 【山田委員】 講演3の「歯科口腔健康診査のメリット」とあるが、歯科医師会としては「高齢者歯科口腔機能健診について」専門職の方で講演したが、そちらも含めたものとして考えてよいのか。71歳以上とそれ以下で分かれているが、そのあたりを含めた時間ということでよいのか。
- 【研修部会長・菅氏】 専門職向けと同様に高齢者向けの口腔健診の内容でお願いしたいと考えている。また今のところ講演内容は仮としてあげているので、また相談しながら検討したい。
- 【山田委員】 寸劇のやり方はどのような流れになるのか。どのようなものかイメージがわからない。
- 【研修部会長・菅氏】 昨年度の薬剤師会の動画で、高橋先生の実際のお薬手帳の活用の仕方などが大変に好評だったという話を受けて、実際に受診券を受け取ったあとの流れを動画の寸劇で見ると流れが分かりやすいというのではないかと、というところまでの話になっている。
- 【高齢者福祉課・二串氏】 寸劇は企画中であるが、昨年の薬剤師会の高橋先生の動画がとても好評だった。市民の方に確認をすると、いつ受診券がどのように来るのかがわからない。申込もどうやってやればいいのかわからない。申し込んだ後に健診を受けていただいて、特定保健指導をやることも市民になかなか伝わっていない。そのような流れをドラマ仕立てのような形で映像に残して配信することで、市民の方にもより健診を身近に感じてもらうことができるのではないかとということで企画を考えている。歯科検診に関しても同様の形でどこまでできるかということも講師の先生と相談していきたいので、歯科医師会の方も相談に乗ってほしい。
- 【及川委員】 町田市の健診について研修部会で話し合っては来たが、市民の方にわかりやすく病気の予防となることを伝わりやすくなればよいと思う。楽しみにしている。部会として協力していきたい。

研修部会で引き続き検討していくことで承認された。

#### (2) お薬手帳カバーの市内全域普及について 【資料7】

- 【長谷川委員】 長谷川氏より資料7と別紙に沿って説明された。
- 【小林氏】 お薬手帳カバーについては、昨年度から取り組みを(町田)圏域で続けている。お薬手帳を使って、多職種が連携をしていくということに対して、効果測定という視点で、どのような運用状況で、どのように使うと、患者様やご利用者様に対して効果的に還元できるのか、この視点を整備するために、現在事例シートを圏域内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーや各薬局、他地域の一部医療機関に声をかけて参集を始めたところである。これから裾野を整理して広げさせていただき、集まってきたところをまとめて皆様のところに届けて、上手な活用の仕方などを整理して発信できればと考えている。今回お薬手帳を軸にした大きなポイントは、1つはご本人も見て確認できるということである。お薬に関しては周りの専門職だけではなく、まずはお薬を使う当事者、あるいはその周りにおられるご家族た

ちも一丸となって管理や確認をして取り組む必要があると考えている。本人を中心とした多職種連携のツールの一つとして、決して万能ではなく連携の仕方の一つなので、ケアチームの中で、使い方や使うタイミングなどを示し合わせて、うまく運用できれば可能性のあるツールになるのではないかと考えている。

【高橋委員】すでに一部の町田圏域でテストしてみて、とてもよい成果を得ているのであれば、それを拡大してやっていくのはいいトライなのではと思う。この話もいただいていたので、薬剤師会にも話したところ、理事全員が1,000でも2,000でもやるという協力の声を聞いている。さきほどのマニュアルのいただいた対象者に上手に配るということは、会の方で協力できるのであれば、全力でやっていくという声もいただいているので一緒にやっていければと思う。

【山田委員】お薬手帳カバーに関しては、自分も圏域で参加していて、先行して患者様にお配りしている。説明にもあるが、お薬手帳を活用して連携するということで、メモを残すということを周知しないとならないと思う。我々には1委員1冊ということで、こういうものが町田で配られていますよということで、なかなか全員に周知するのは難しいのかと感じは受ける。それをいかに活用してもらうかというところが、課題なのかと考えている。最低限、自分のかかりつけの診察券や名刺などを入れていただき、歯科は〇〇医院に通っていますというような意思表示を患者さんには伝えられれば、とりあえず成功かと思う。次のステップとしては、お薬手帳にメモを残して、医師や薬剤師の方がこういう治療をしているとか、認知機能が落ちているとかのメモを見ながら、連携みたいなものが生まれるとよりいいものなのかと思う。

また、議題とは違うが、先ほど、五十子先生よりケア会議の周知について、もっと多くの方という話がでたが、自分もこの会議に出るようになって、ケア会議に出るきっかけとなった。なかなか一般の会員がケア会議に出るというのが、日にちを1週間前や2週間前に知らされても、その日に行けないということもある。こういったことを拡げていくために、その圏域の先生全員には早くそういうものがやっているということをお知らせできるようにと何年も前から話をしている。市の方ではなかなか難しいというお話だったが、浸透させていくためには、多くの先生方に参加していただくということが、一番なのではないかと思う。

【五十子委員】マニュアルを配布するということなので確認したい。20ページの「※「在宅高齢者」の定義」というところで、「長期入院をしている者」とあるが、長期入院とはどのくらいのことを言うのか。

【高齢者福祉課・二串氏】長期入院に関しては、そこまで深く考えていなかった。「在宅高齢者」の定義ということ自体が、救急医療情報キットの時に設定した定義で、ご指摘を受けて長期入院の定義を考えていけないといけないと思ったので、事務局の方で考えたうえで周知させていただきたい。

【大島委員】ケアマネジャーもお薬手帳を確認するということは浸透しているが更に踏み込んで多職種連携のツールとして活用していくということで、広めていけるように連絡会としても主旨をしっかりと理解していただき、会員の皆様にも発信をしていけたらと思う。

【齋藤議長】効果測定のほうにも、今後ご協力お願い致します。

お薬手帳カバーの市内全域普及について承認された。

#### 4 その他

(1) 町田市内の介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)作成に関する参考資料提供について

【高齢者福祉課・二串氏】二串氏より資料の説明がされた。

第1回の町プロ協議会の際の意見交換で、ケアマネ連絡会の大島委員より介護事業所における事業継続計画BCPの話があり、その際に市の地域防災計画にも要望があった。そこで町田市の地域防災計画600ページほどある中で、BCP作成に参考となるような箇所44ページに抜粋したものを作成した。この資料は町プロポータルサイトの方に掲載している。その資料の中には地震・水害・感染症など有事が発生した際に町田市としてどのような体制が取られるかが明記されている。また町田市地域防災計画資料編が2021年度中に発行予定となっている。その中には、いわゆる災害拠点連携病院、

地域救護病院なども一覧として掲載される。また防災マップ、地震に関するものとハザードマップ、水害に関するものも統一されたものが今年度中に新しくなる予定になっている。この情報はわかり次第、町プロ協議会でも報告させていただく。

【大島委員】 早速の資料のご提供ありがとうございます。これはケアマネ連絡会だけではなくて、今後、通所や訪問介護などでも各連絡会の事業所単位で、BCPを作っていくということでは災害時の医療救護の体制がどのようになるのか、ということが明記されているのでとても参考になる資料ではある。ただし、個人的には枚数が非常に膨大で、一般の方が読むのは大変なのではないかを感じる。平成25年の1月の広報(2013年1月21日広報まちだ地域防災計画特集号)で、計画の概要版がとてもわかりやすく載っていた。当時からは内容が変わっているので、その後広報が出ていたら申し訳ないが、なんらかの形でそういった概要版のようなものを市民の方には発信していただけるとわかりやすいのでは、と個人的な見解であるが感じる。地域防災計画の概要版という形を1枚で見やすくなっており、拠点病院や連携病院など、そこでどういうものが受けられるというのが掲載されていた。

【五十子委員】「地域救護病院」という名前が出てきたが、新しくできたのか。どこのことを指すのか。町田市内で統一されていないのか。地域救護病院というのはないのではないかと思います。

【高齢者福祉課・二串氏】 おそらく統一されたものがあると思うが、もしかしら間違えている可能性があるるので調べて報告をさせていただく。

## (2) 第10回喀痰吸引研修について 【資料8】

【赤平氏】 赤平氏より資料8と別紙に沿って説明された。

資料8 6. 定員は20名に修正された。

## (3) 各協議会委員の報告・意見交換など

【西原委員】 西原氏より資料9に沿って報告された。【資料9】

ソーシャルワーカー連絡会ではシリーズで成年後見制度をもっと身近に必要な方に活用していただくための研修を連続しておこなっている。本来なら高齢者家族や親を、お子さんたちが金銭的に、あるいは最後の場所を探すなど、親身になって最期の安心して暮らせる生活を支援していくというのが家族としての役割ではあったが、一人家族、高齢者夫婦の増加に伴い、家族や身近な方が支援できなくて、社会的な権利擁護というものを早く発見して、支援する必要がある方、こうした方々の急増というものをソーシャルワーカーとしては日々感じているからである。今回は町田市社会福祉協議会福祉サポートまちだの方から研修を行なった。こちらは権利擁護の中核機関だが、昨年より、市長申し立てを要するものの申し立て人がいなかったり、あるいは調査もできないような身寄りのない方々の複雑かつ困難ケースを取り扱い、支援につなげるということをおこなっている。参加者はソーシャルワーカー連絡会や病院、支援センター、障がい福祉施設、こうしたところから参加された。簡単に報告するとこれまで成年後見というとお金の管理が中心で考えていたけれども、お金の管理＝その方の生活の場、生命、あるいは安全を守るということ、本人ができない場合に支援していく、そういう役割があることがわかった。また急性期の病院では、こういった必要性はあるけれども非常に時間がかかり、なかなか支援に繋がられない、そういった声もあげられた。

今後、相談に来た方の必要性を発見して、必要な方には早く成年後見制度をつなげていけるように、これからもソーシャルワーカー、多職種の方々と連携しあって進めていくことが必要だと感じた。

【大庭委員】「施術報告書」の進捗について報告された。

2点報告させていただく。

1. 前回、訪問マッサージの方向性についてお話をいただいた。主治医の先生に同意書の更新の際に添付をし、多職種と情報共有のためにお渡しする施術報告書に目標設定を盛り込んでいくことになった。昨年の町プロ協議会において、医師をはじめケアマネジャー、訪問看護の多職種の皆様から、様々なご意見をいただいた。それについて、加盟している13の事業所間で意見交換を重ねてきた。当初は目標設定を盛り込むことに対して、悩む事業所もあったが、多職種に対して、訪問マッサー

ジの目的や内容を適切にフィードバックするうえでも必要であるという意見や、ケアプランにおいても目標設定がされており、その内容にも沿いながら訪問マッサージもサービス提供しているという意見もあり、今回の目標設定をするということになった。今後、事業所ごとに施術報告書に目標設定を盛り込んでいくが、各連絡会で気づいたことがあれば、また意見をお聞きしたい。

2. 未加盟の事業所への取り組みについて。現在13の事業所が加盟しており、加盟事業所が多くない状況である。さきほどの報告書の取り組みも13の事業所だけがおこなっているだけでは、訪問マッサージと多職種連携、他の職種との連携が円滑にならないと考えている。町田市において訪問マッサージを行っている数だが、正確には把握できていないが関東信越厚生局に届け出をしている事業所が90ある。そのうち訪問マッサージを行っているかどうかということは確認が取れないが、90あまりある事業所に対して、この町プロ協議会についてのことや、訪問マッサージの現状について、メッセージを送り、情報提供は行っている。また当連絡会の研修会にもお誘いすることで、活動を理解していただき、入会に繋げる取り組みも行っている。こちらは時間がかかることではあるが、継続した活動を続けていきたいと思う。

【齋藤委員】 目標についてはケアプランに沿ってということだったが、訪問マッサージの個別計画をたてているということでもいいのか。

【大庭委員】 ケアプランの中に訪問マッサージの方もサービスということで入れていただいて、ケアマネジャーの作成している目標設定に沿って設定をしていくことで、より専門性のある目標設定をしてければということで会としても取り組んでいきたい。

【五十子委員】 会員の先生からよく聞くところであるが、目標設定には期限が書いてあるのか。目標設定だけだとエンドレスになってくるということを先生方は言うことが多いので、こういう目標です、ということだけではなく期限も具体的に何かあるのか。

【大庭委員】 現時点では期限についてはいつまでにとすることは話し込みができていない状況。ただ各事業所で3か月または半年という目標期限を決めて、目標をたてている事業所もあるので、できればそういう形に進んでいけるように思っている。まずは、目標を盛り込むという段階で、ひとまず話し合いが進んだということになっている。

【長谷川委員】 施術報告書については同意者の更新の際にするということではいいか。

【大庭委員】 更新をする際にそれまでの経過を報告したり、更新をしたあとでどういった内容でおこなっていくという形で、各事業所で多少の違いはあるが、基本的には同意書の更新の際に報告書を添付している。

【長谷川委員】 たとえばケアマネジャーだと初回のときには計画書を作成して、その計画に基づいてサービスをしていくが、初回時は先生に初回に行うにあたって通知するものや、こうした形でやっていくというものは存在していないのか。

【大庭委員】 事業所によってばらつきがあるが、初回にアセスメントをおこない目標を設定して、それを先生にお渡ししているという事業所もあるし、そこまでは行けていないという事業所もある。

【長谷川委員】 先生方に質問させていただきたいが、初回もそういったものは必要か。

【五十子委員】 なくてもよいのではないかな。

【五十子委員】 そもそも論になってしまうが、コロナが増えたりする中で、今後も協議会の開催が(対面とオンライン参加の)ハイブリッドで Zoom を使ってということになっていくと思うが、画面を見ると、所属と名前がある方、名前のみ、画面を出す方と出さない方が皆バラバラになっている。ハイブリッドで行うのであれば、統一性をもって確認をしていかないと、誰がどこの誰なのかがわからないというのは、あまりよくないのではないかな。

【青木委員】 確かに統一性がないので、次回からは事務局から案内する際に表記する内容を連絡する。

【五十子委員】 発言をするときにも手をあげるとか、声を出すというのも被ってしまうので、そうしたことも決めておかないとまとまりがなくなるのでないか。

【青木委員】 そこも含めて事務局より統一したものを連絡させていただく。

(4) 次回の協議会の開催日程

2022年2月24日(木)19:00－21:00 ハイブリッド

【青木委員】 感染状況も含めてではあるが、ハイブリッド型が主流でもあるので、こうした形で今後も進めていきたい。

5 閉会挨拶

【齋藤副会長】 皆さん、お疲れ様です。今回(オンラインで)傍聴された方は55名ということで、ありがとうございます。

今回自分も考えさせられたこととして、報告4の死亡小票分析報告書というところだと思う。これから医療と介護の連携の大切さということでこの協議会が始まった。今後、多くの方が亡くなっていくという時代をこれから迎えるということになるが、どこで最後を看取るかというところは、自分も2040年だと自分自身がその場に立つので、真剣に連携のできる場所を作りたいということで、我がこととして考えていきたい。これから皆さんがどのようにこれから連携をはかって、医療と介護の連携を推進していくか、ということがとても大切になっていくのではないかと思いますので、皆さんのご意見を大切にしながらやっていきたい。よろしくお願いします。

以上の議案審議、協議を行い、2021年度第2回の協議会を閉会した。

以 上